



目 次

- ① すくすく広場の初めての夏の体験 報告 …理事長 坂本佳代子… 1
- ② 8月24日すくすくサロンでの小研修会 まとめ …河野京子… 2
 報告「すくすく広場・中高生勉強会で見てきたこと」 … 4
 討論まとめ … 4
- ③ あそび・まなび・たべる＝すくすく広場夏休み勉強会 まとめ …戸恒和夫… 6
 振り返り会記録 …木村康平… 8
 すくすく広場に参加しての感想 …アルセ昌代… 9
 今後ともよろしくお願いします …杉沢正子… 10
 『わかった!』を体験した子どもたち …嶋明日香… 11
- ④ すくすくのあそびひろば 7月振り返り会記録 … 12
 すくすくのあそびひろば 8月 感想 …齋藤慶… 12

一般社団法人すくすく広場

①すくすく広場の初めての夏の体験 報告

理事長 坂本佳代子

異常気象を実感するようになって、既に数年が経とうとしています。2011年3月11日の東日本大震災以降、日本の国土環境は変容してきていると識者も論じており、洪水被害の報道が連続しています。とは言え、加須では稲穂がたわわに実り、この夏は花咲徳栄高校が高校野球の全国制覇という快挙を成し、喜びに沸き立っている今日この頃です。

私たち、一社すくすく広場は、昨年12月に産声を上げてから、初めての夏を迎えました。この間、すくすくのあそび広場を毎月実施、学習広場はこじんまりとながら定期実施できるようになってきました。〈あそぶ〉〈まなぶ〉〈たべる〉をモットーとする我が会では、なんと7月25日から27日までの3日間に夏休み勉強会を敢行いたしました。思いのほか子どもたちが集まってくれたことで、勉強担当スタッフと料理担当スタッフは大奮闘することになりました。

この活動によって、私たち会員も学ぶことが多々あり、今後に生かしていくべき課題が見えてきています。ちょうど、活動の節目とも位置付けられる時期であり、私どもの活動が少しずつ形になりつつあるところではあります。この時期に会員の皆様に、活動の一端とスタッフの思いの片鱗なりとお届けしようということになりました。

今回は、スタッフの相互の学びの場でもある、サロン活動での小研修会報告と、夏休み学習会報告及びすくすくのあそび広場のこの夏の振り返りの様子をご報告させていただきます。

是非お目を通していただき、活動へのご参加、ご意見等お寄せいただければ幸いです。

(2017, 9, 18)

② 研修会報告

8月24日すくすくサロンでの小研修会

報告者；河野京子 「すくすく広場・中高生勉強会で見えてきたこと」

まとめ 戸恒和夫

すくすく広場学習支援委員長の河野京子さんが、5月にスタートした「すくすく広場中高生勉強会」のこれまでの経過と、見えてきた課題について報告し、討議しました。

参加者；田村（羽生の杜）、赤嶺、石井、河野、丸山、浦部、鈴木、関口、戸恒

1、「中高生勉強会」は5月に始まり、8月17日まで、毎木曜日に市民プラザかぞで1回も休みなく実施してきました。通常5時から5Fの公共スペースで、6時から会議室を確保して7時まで。夏休みには午後1時から4時間ずつ実施しました。高校生メンバー3人は出席も良く、夏休み勉強会（7月22～24日）開催にも軸になってくれました。夏休み勉強会後は、中学生も一部参加するようになっています。

2、指導者は、英語；河野京子・庭山泰子。数学；柳澤和義。理科；鎌田稔。他に戸恒和夫・野瀬慎一が小中学生対応で参加しています。

3、3人の高校生とその周辺（取扱注意）

Aさん（高1女）は父がペルー人で、母は多文化共生キーパーソン（埼玉県知事の要請で加須市では20人程が外国籍の人たちを支援している）の一員として活動。河野の知人。高校進学後、本人が希望し「勉強会」発足のきっかけを作った。

Bさん Cさんを誘ってきたなど、気持ちが開けており、将来は、英語・スペイン語など語学を役立てたいと希望。

Bさん（高1女）中1でインドネシアから来日。「自分で頑張るしかない」との思いを強く持ち頑張っている。英語はよくでき、中3時に英検2級合格。今は準1級を目標に頑張っているが、インドネシア語で英語を理解しがち。日本語のボキャブラリーを増やすことが当面の課題。理科・社会などにはギャップがある。

Cさん（高1女）Aさんに「片親なのを隠すことないよ」と誘われて参加。中学時は週一回日工大のオープンクラスに参加して、各教科ともまじめに取り組んできた。

Dさん（中3女）中2でブラジルから。父を避け、母と加須に来たが、不登校気

味。Aさんの母や河野が働きかけてきたが、今のところ参加していません。中学校では放課後登校をさせて個別指導し、市の補助で夏休みの講習会を受講しているとのこと。

Kさん（中3女）騎西の坂本和代さんの働きかけで夏休み勉強会に1日参加。おとなしい。

Sさん（中3女）Aさん母の勧めで1日参加の後、木曜にも1回参加。提供した数学の教材に熱中し、めきめきと理解した。この2人は経済的に苦しい家庭に加須市が提供する講習会で夏休み期間を過ごした。

Yくん（中1男）教育センターの紹介で夏休み勉強会とその後の木曜にも妹と熱心に参加を続けています。両親が忙しく、夕方は外食して塾に行くなどの生活の様子です。

4、見えてきた課題

ア、中心になる3人は、1学期に関して、それぞれの予想以上に成績が良かったので喜んでいましたが、Bさんを除き、2人は逆に良かったことで緊張が解けてしまい、夏休みに入って勉強への姿勢の中だるみが目立ってきているようです。英数について、自分で苦勞して辞書を調べたり、問題を解いたりする姿勢が欠け、また生物の宿題プリントも、表紙にある「教科書○Pを読んで…」の指示も読まずに、教科書を持たずに来てしまったり、友達に答えだけを写せてもらったりして済ませてしまう。誰にも必要な要領の良さ—と、見えなくもないが、根本的に「頑張って自力で解決できた時のうれしさ、次への意欲」という学習の原体験に欠けていて、心もとない—と指導者間では話し合っています。

英語に関して言えば、日本語と違って英語は語順で文意が決まっていく言語ですから、「だれが・どうした・いつ・どこで…」と文頭から認識していく習慣をつけることが重要です。それが身に付きさえすれば、和訳に限らず、英作文、リスニング、スピーキングみな比較的楽に進むものです。ですから教師二人はそのことに拘って生徒と付き合っていきたいのですが、生徒はその過程をとばして答えとなる訳を手っ取り早く教えてもらい、書き写しがります。

今の学校では、たくさんのプリントをやみくもに出す先生が良い先生になっており、生徒はプリントをやって提出さえすれば、順次加点されて成績が出てくる仕組みになっていて、そのプリントには新出単語の訳のリストまで用意されているといった具合です。その中で、この子たちに限らない一般的な傾向として、授業のうわすべり？が起きているように思えるのです。4人の指導者が同様な感想を持っており、9月にも、生徒さんたちと向き合って、ていねいに話し合うことが必要だと思っているところです。

柳澤さんも鎌田さんも、空いた時間さえあればいそいそと昔大学で使った教

科書を勉強して「前はわからなかったのが、今だとわかるんですねえ…」などと漏らしておられて、とても素敵です。このような素晴らしい環境の中で、生徒さんたちが勉強のおもしろさをつかんでもらえたらと考えています。

また、夏休み勉強会によって、小・中生との勉強でのつながりが出来てきました。愛泉とのつながりは相互に大切にしていきたいし、今回出会った子たちとの関係は2学期にもていねいに継続していきたいです。また、保護者との関係を図る必要も感じられています。

5、討議

石井 お話を聞いて、3人の高校生については、大切な課題を的確に掴んでおられると思います。ただ彼女たちはまだ恵まれたほうで、私たちが夏休み勉強会や、これからも、出合い続ける子供たちは、もっと基礎学力が欠けていたり、学習習慣が出来ていなかったり、生活そのものが荒れていたり—など、もっと手前のところで取り組まなければならない課題が多いだろうということも、皆さんで認識を共有しておきたいと思います。

戸恒 石井さんの指摘は大切だと思いました。具体的に出合う生徒さんとの関係の中で、相手と向き合いつつ、いろんなバラエティに富んだ自在な対応が可能のように、ゆったりした姿勢で、研修を積んでいきたいです。その時、数十年前の自分が高校の数学に取り組んだころを振り返ると、動機として、周囲に負けたくないという、エリート志向・上昇志向と不可分の、視野の狭い、少し情けないものだったことを思い出します。これを押し付ける気にはなりませんよね。

それと、授業の上滑りは高校に限らず、中学校でも見られ、一般的な傾向だと思えます。今の若い先生たちは、僕らが舌を巻くような素晴らしい資料や問題集をバンバン出してくださるが、何か一緒にじっくりと課題に取り組み、生徒がひらめく瞬間を味わうというか、生徒に主体的な学習の喜びを味わわせることが出来ていない、いや、そのイメージができていない気がします。

丸山 今、学校ではベテラン教員が多く退職し、若手教員を支援する立場の教員が減っているのが現状です。そこで、国から教育現場に教育改革が押し寄せ、若手教員の資質向上も求められています。学校の多忙な状況が、子ども達に何らかの影響を与えなければよいと懸念されます。すくすく広場は、学校でもなく学習塾ではないので、すくすく広場での“まなび”の基本は、子ども自ら学ぶ習慣や態度を身に付けられるように支援することだと思います。それには、子ども達が通う学校の実態を把握して、その校で学んだことを、すくすく広場でどのように充実させたらよいのか等、議論することが重要に思えます。

まとめ

短い時間でしたが、有意義な意見交換が出来たように思います。

丸山さんのおっしゃる通り、塾とも学校とも違う、すくすく広場としての独自性をどのように持っていくのか、学校との関連で考えていくというのが根本だと思います。このあたりをスタッフ間でさらに共有することが大切に思います。さらには、生徒さんたちはもちろんですが、親御さんたちとの話し合いも大切になってきていますし、今後、現場の先生方との交流や、教育委員会との連携にも期待する点が大きいように思えます。

このレポートは、正会員の皆さまにお送りしますが、ぜひ討論の輪に入っていて、いろいろなアイデアやご指摘をいただければと思います。

会員が気楽に集い、意見や情報を交換でき、すくすくが歩む方向を考えて行く場として、毎月1度、**すくすくサロン**を開いています。毎月25日の直前の木曜日ということで、第3週になることが多いですが、時間は**17時～19時**、会場は**女性センター**または**青年センターの談話室**です。

9月21日、10月19日、11月16日、12月21日です。

後日談ですが、報告に出てきたAさん（母）は、河野さんとの「動機づけ」の話の中で、〇〇寺の和尚さんが「なんなら、お寺で英語合宿をやってみようか！わしも勉強してみたいしな…」とおっしゃっていると話してくれたそうです。保護者のお立場から、こんな素晴らしいアイデアをもらえるというのは、すごいことだと思います。ですから、この夏に出合った生徒さん方皆さんとの関係はますます大切にしていきたいものですし、愛泉寮との連携、教育センターとの連携等、ぜひしっかりやっていきたいと思います。

戸恒としては、美味しいご飯と、不思議な力を持った教材というのがもっともっと欲しいと思いました。別途、「夏休み勉強会のまとめ」にも触れましたが、「マルちゃんのかがかくあそび」など、「すくすく」でする豊かなあそび体験が、学校の勉強にも間違いなく生きてゆくのだという所に確信をもって、すくすく広場らしく、遊び心と共に、楽しく歩んでいきたいと思いました。

また、新学期を迎えるこの時期、不登校に関する事など、いろいろ取り組む課題は多いです。皆さんからのご指摘をいただきながら、徐々に考えてまいりましょう！

追記；編集者宛に、校正段階で、理事長の坂本さんから次の指摘がありました。大切な観点ですので、皆さんで共有したいと思います。（戸恒）

●細かいことかもしれませんが、私は使役語には抵抗を感じることが多いです。「させる」という表記は教育機関の正式文書では当然の様に見えています。しかし福祉の業界ではかなり吟味して使います。使役語は上下関係であり、虐待と隣り合わせに居る福祉業界では虐待防止の意味でも避けるのです。（坂本）

③ あそび・まなび・たべる＝すくすく広場夏休み勉強会まとめ

2017. 7. 22～24

A「ふりかえり」会記録（24日の終了後、スタッフの茶話会で）

①調理室で勉強させたことはよかった。・調理しながら、子ども達の様子がわかり、調理する方も張り合いが出て、楽しかった。やり取りが出来る。お手伝いしたがる子もいた。・勉強する側として、決してじゃまな感じはなく、むしろ「自分たちのためにしてくれている」と感じられて、嬉しい、励みになる、大切にしてもらえているなど。・テーブルクロスを用意してエンピツの汚れをふせぐ。

②和室の控室・用意して良かった。小学生が昼の休憩で楽しんでいた。新しい子がなじめるきっかけ。大人の目を離れる解放感？と、自分たちで仕切る気持ち（ものを壊さないよう注意し合っていた）。気分転換。鼻血を出した子の休息。



③次回は不動岡公民館の方が適当？・においが廊下に流れ、子どもの声も響くので、ドアを閉めるよう注意したい。・1日目は控室に取った和室のお隣がお茶の会だったので神経を使った。・不動岡は会場費が無料。・参加する子供は、保護者が送り迎えするので、少し遠いが不都合はないと思える。

④高校生から小学生まで一緒に？・悪くない。むしろ、良い雰囲気だった。・高校生への説明の途中に、小学生が話しかけるなどのことはあったが、気を使う場面も見られた。・小学生にとって1時間に1度ほどの休憩が入るのは必要。飴やお菓子を用意したのが、楽しみだった。大きい子たちに配りに行くのが楽しみな子もいた。・中3生、高校生の集中力・持続力がすばらしく、存在感があった。小さい子たちを無言でリードしていたようだ。

⑤参加者数

22日（土）高1、中1、小5、計7人。スタッフ8人。計15人。

23日（日）高2、中2、小5、計9人。スタッフ12人。計21人。

24日（月）高3、中4、小8、計15人。スタッフ10人。計25人。

・毎木曜の高校生勉強会の流れが軸になって実現できた。

・坂本晴美さんの関係で、中3女1名。アルセさんの関係で中3女1名。

・チラシは公共機関に配布。小学校にはしなかった。⇒申し込みは「くらくら館」経由が1件。

- ・教育センターの紹介で、参加が1件2名。所員の方2名が参観してくれた。



・愛泉寮の木村康平さんが趣旨を理解して、積極的に子どもたちに参加させてくれた。今後も続けて連携のあり方を相談する。

・急で、長時間にわたる企画でしたが、皆さんが自発的に協力してくれ、スタッフに多少のゆとりもあるくらいで、無事、成果を上げて終了できた。

⑥教え方・「無計画の計画」ともいえるスタートで、出たところ勝負だったが、それぞれがベテランのスタッフで、阿吽の呼吸で十分に補い合い、連携して指導ができていた。

・塾や学童保育とはまた違った雰囲気をねらった。1対1の向き合いを基本に、適宜入れ替わって、関係が緊張しすぎることや、低学年に出がちな甘えを上手にかわしながら指導出来ていた。人数的にもスタッフに余裕のあることが、無理なく自然に子どもたちを落ち着かせている。子どもたちは、大切にされていると感じている。この点がとにかく重要。

・スタートの時期をねらい、夏休みの宿題を持って来てもらったことは良かった。個々にやるべきことがはっきりしており、復習中心で、アドバイスもしやすい。友だちと励まし合ってやっていた。ただし中1女が1人、衆目の中で誤りを正されることに過敏かつ拒否的で、迫られると泣き出してしまった。(翌日は欠席) どんなかかわりが必要か考えたい。もう一人小2女が、課題を少なく持って来て、早く終わり、遊びだしてしまった。集団の中での独特の役割の様にも見え、周囲はそれほど影響を受けないが、これも課題。

- ・1日目午後、一気に小学生と中学生が増え、スタッフが不足するため、導入に、

おもちゃのお金とトランプを組み合わせたゲームを40分ほど行った。黒が＋、赤が－の正負の計算が組み込まれているが、小2でもすぐに理解する。手札から1枚とられるミッションでは、出来るだけ大きな数字の赤を取ってもらいたいことや、赤と黒で相殺されることなどを納得する経験は、中学生にとっても意味が大きい。抽象する以前の具体的な体験の蓄積というべきか。「丸ちゃんのかがかくあそび」を始め、学習に繋がる種々のあそび体験が、すすすすく広場の担う役割の一つだと思える。

・中3生のために、数学の因数分解からの教材を用意した。定評のある古い教材でしたが、成績が3くらいの子にぴったりフィットし、めきめき理解し、夢中になって勉強し出したのには、周りの皆がビックリした。「本当に分かる！」という体験を引き出せるこのような教材をさらに用意したい。レディネスと言うべきか、あるタイミングでの限られた働きかけで、ゴチャゴチャ未整理な知識を系統づけ、奇跡的な程理解が進むことがあり、フィットすると、ほとんど自発的にこの作業が学習者の中で進むことがある。(それまでしばらく放っておくことも必要なプロセス?)

・いつもだが、ごはんのスタッフが素晴らしい。本当にぜいたくな程で、素材の新鮮さ、美味しさ、献立の工夫など、自慢が出来る内容だ。誘うときにも自信が持てる。今回は市の補助金を早速活用して参加費は一切無料で実施できた。感謝したい。

・費用概算	会場利用料（調理室、和室3日間午前午後）	14000円
	食材費（野菜の全部と米は寄付）	10000円
	教材費・おやつ代	2500円
		(以上 戸恒記)

B 愛泉寮木村康平さんから

すすすすく広場に参加しての感想

○職員 木村康平

3日間に渡りお世話になりました。活動を見て、勉強させていただき側と、子どもを預ける保護者側との両面で、様々なことを感じました。一番の感想は、子どもが非常に集中して落ち着いて勉強に取り組んでいたことです。それは日常と違った環境なのでそのような状態であったということも言えるかもしれませんが、教えて下さる方々の興味関心の惹きつけ方がやはり上手だなと思いました。子どもからの感想の中で「勉強が社会に役立つことを学んだ」という感想は学校の先生や、日常一緒に生活している職員からは教えきれていないことだなと感じ、そこにとっても勉強会の意義を感じました。また、食事に関しては子ども達から「ごはんがおいしかった」と口々に言っていました。調理スタッフの方々の腕前とかが子ども達にもとても良く伝わっており、感激いたしました。「学習」「食事」「遊び」の提供の必要性をととても感じ、学びの多い3日間となりました。ありがとうございました。今後とも愛泉寮として、取り組みを共にやっていきたい所存ですのでよろしくお願い致します。

○小3 男児 楽しかった。いっぱい勉強できてよかった。デザートがおいしかった。(ブドウゼリー、ミカンゼリー) ご飯がおいしかった。また来年行きたいです。

○小3 女児 楽しかった。宿題終わって良かった。友達ができてよかった。友達と一緒に勉強するほうが楽しい。

○小2 女児 楽しかった。もっとやりたい。おやつがおいしかった。デザートゼリーがおいしかった。宿題終わった！

○中1 女児 先生とかに教えて貰って、わからないことわかるようになってよかった。カレーが美味しかった。また次やるときは参加します。

○中2 男児 勉強が社会に役立つことを教えてくれた。ありがとうございます。

○小6 男児 宿題が少しだけ終わってうれしかった。1日だけの参加だったけど3日間行けばよかったなって思った。

○小3 女児 行けて良かった。宿題が早く終わったから。来年も行きたい。

○小6 男児 勉強を楽しくできました。いままでは夏休みの宿題は嫌だったのに、家でやるよりどんどん進みました。ご飯もおいしかったです。次やるときもまた行きたいです。

○小2 女児 いっぱい問題を作ってくれて、できたら褒められたからうれしかった。たくさん褒められた。勉強を教えて貰ってうれしかった。難しい問題も作ってくれた。勉強教えてくれてありがとう。

○小2 女児 ご飯がおいしかった。休み時間に遊んだのが楽しかった。鬼ごっこして遊んだのがたのしかった。

⑥ アルセ昌代さんから

メールのご送付ありがとうございました。

1日だけですが参加させていただきとても良かったです。

簡単な感想をお送りします。

☆高校1年生の娘が木曜日の勉強会でお世話になっているアルセです。

今回は最終日しか参加出来ませんでした。特に小学生が生き生きと、楽しく参加している様子を見てこちらも癒されました。

教室のスタイルが、家庭で母親が料理をする向こうのリビングで子供たちが勉強している雰囲気。子供たちにも安心感を与えたのかと思い、とても良かったです。

ただお子さんたちの感想の中で「褒められたからうれしかった」というのを読んで、反省で胸が痛みました。普段自分の子供を褒めるのは意外に難しい事ですので…

私が紹介したAさん（中2女子）はお母さんが仕事に出ている間子供たちだけで買って来たもので食事を済ませることも多い様子で、愛情かけて作って下さった栄養満点の昼食をしっかりといただいて喜んでいました。人見知りだからとお母さんが心配していましたが、先生方の気さくな雰囲気作りのお陰で安心して入っていったようです。

日程としては、夏休みに入ってすぐも良いですが、休みに慣れて中だるみになっている時期も良いかなと思います。（もちろんお盆休みを避けて）Aさんなどは土曜日に「進学フェア」があったそうで、そのようなイベントに重ならないよう調整していただけると良いかもしれません。

今後とも微力ながら協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

D「わかった！」を体験した子どもたち

杉沢 正子

夏休みの勉強会を手伝ってほしいとの連絡を受け、特に予定もなかったので気軽に引き受けた。しかし、その日が近づくにつれて不安が頭をよぎる。現場を離れてかなりの年月が経っている。教育も日進月歩だ。それに加えて私の脳もかなり錆びついてきた。**果たしてどれほど役に立ってるのか。**

雑事に追われているうちに夏休みがやってきた。市民プラザかその会場に着くと、昼食担当の方々が早くも調理を始めている。新鮮な野菜が並んでいて見るからに美味しそうだ。とっさに「働かざる者食うべからず」という言葉が浮かぶ。こうなったら、**老骨に鞭うって頑張るしかないぞ。**

子どもたちがやってきた。それぞれに自分の課題を持ってきている。自主学习が基本だから、つまづいたり横道にそれそうになったらアドバイスすればよい。2日間お手伝いして、小学生の算数、社会、理科、中学生の数学をみた。ほとんどの子どもは**傍で見守っているだけで、自分で考え解決して次に進んでいく。**「よくわかったね」「そうそう、その調子！」と時々声をかける。鉛筆が止まった子には、「2行目の計算がちょっと違ったかな？」などと一言アドバイスすると、「あ、まちがえた！」と気付いて前に進む。**再び鉛筆が動き始めた時の表情が何ともいえない。前進する自信に満ちあふれている。**

「授業中に『わかりましたか？』を連発する教師は指導力がないことを露呈しているようなものだ」と先輩に聞かされたことがある。それ以来、なるべく「わかりましたか？」と言わないように努力したが、充分理解していない子どもの存在は常に心にかかっていた。一人ひとり、一步一步理解させながら学ばせたいという思いは、すすすくの勉強会で叶えられると思った。**カリキュラムも指導要領もない。そして時間はたっぷりあるのだから。**

2日目のことだ。昼食時、どこに座ろうかとうろろうしていたら、「ここ空いていますよ」と中学1年生の女子に声をかけられた。食べながら、学校のことや好きなアーティストのことなどを話した。突然、「ピンクのアイシャドウ、似合ってます」と言う。「有難う。一応、ピンクのブラウスに合わせたの」と答えたが、驚いた。**こんな私でも女性の先輩として見てくれていたのだ。**今日は子ども相手だからと、服装も化粧も手抜きだったことを反省した。

勉強会が終わった翌日、市民活動ステーションで「昨日は娘がお世話になりました」と声をかけられた。中学2年生の数学で因数分解と連立方程式と一緒に解いた。理解が早いのでとても楽しかった。**帰宅して、すすすくの勉強会の様子を母親に事細かに話している様子が目に浮かんで嬉しくなった。**

教育はすぐに結果が出ない。けれど、未来を担うのは目の前にいる子どもたちであることは確かだ。**すすすくの勉強会で「わかった！」をたくさん体験した子どもたちが、それぞれの夢を実現し、加須市を支えてさらに発展させてくれることがわたしの夢だ。**



④すくすくのおそびひろば 振り返り会 7月と8月

①差出人: 嶋明日香 (聖学院大学こども心理学科3年)

送信日時: 2017年8月23日 0:53:59

すくすく広場 7月16日会場; 不動岡公民館 スタッフ6名と学生2名での反省会を行った。

※注意点

- ・家では出せない自分の気持ちを、すくすく広場に出して行く子どもがいる
- ・ホットプレートが子どもたちの背の高さにあってなかった
- ・コード2本に引っかかりそう

☆改善点

- ・火がついているものは大人が把握しておく
- ・火を使うなら子どもたちの背の高さがあうところで1台に2人はついてしっかり見る
- ・長テーブルを使う場合しっかりはめ込む(脚の固定)
- ・次回はテーブルを2台にして、わかる子とわからない子で分かれる
- ・遊びは年齢にあわせる
- ・喧嘩になってしまうので、たくさん色のついた画用紙を持ってくる
(この点は、むしろ色の違いに気持ちがそれないように、単色にしたとの丸山さんの指摘あり)

- ・受け渡しをしっかりとる
- ・子どもたちは誰がリーダーなのか知っているの、指揮・命令をわかりやすくする
- ・タイコの時にお母さんや大人の人にも声をかければよかった

*良い点

- ・丸ちゃんのコーナーはずっとやってほしい
- ・前と比べて動きが早くなった
- ・ごまをする家庭はほとんどないので、勉強になってよかった
- ・食事が華やかでよかった
- ・お母さんたちのお手伝いに助かりました

✧今回大切だったこと

- ・子どもたちにごまをすませたこと
- ・ごまはさらさらしていたが、ごまをするとべたべたになり、ごまの匂いがしてきて、「なんで？」という疑問をもたせたこと
- ・大人のお手本が大切
- ・日本人の知恵が大切・全ての体験が大切
- ・何でもかんでも平等だけでなくトラブルがあるから学べるのであり、選択が大切
- ・1つ1つのポイントに注意し自分自身を育てていくことが大切

●その他

夏休み勉強会について 次回のことについて

②差出人：齋藤慶（聖学院大学児童学科 3 年）

送信日時：2017年8月22日 火曜日 22:26

8月19日(土) 羽生の杜でのすくすくのあそびひろば 振り返り会感想

・いつもとは少し違って羽生の杜での活動という事で、私自身も凄く楽しみにしていました。けれどその日は雨予報で、朝も雨が降っていて、スタッフも外遊びやバーベキューができるのか心配でしたが、降っていた雨が嘘だったかのように暑いくらいに晴れました。子どもも参加してくれるのか不安でしたが、母親 14 人、子ども 28 人、計 42 人。スタッフ 21 人を合わせると 60 人以上もの方が参加してくれました。羽生の杜という素敵な自然豊かな場所で、天気にも恵まれ、入り口には、ヤギが出迎えてくれ、子どもたちも喜んでいました。

母親の中に、小さい双子の赤ちゃんを、遊び盛りの子を抱えて参加された方がいました。その場合、母親は面倒を見ることがとても大変です。けれど今回は、小さい赤ちゃんを預けられる涼しい部屋を設けてあり、とっさの判断で、育児経験のある人、元保育士のスタッフが母親に安心して預けるよう言ったので、その母親はホッと一息つけて、もう 1 人の子どもと外でたっぷりつき合うことができました。ある母親が「保育園みたいだった」とおっしゃっていましたが、それくらい安心できる空間作りが出来ていたのだと思います。この環境は母親にとってだけでなく、普段思うように遊んでももらえないでいた上の子にとっても貴重な場だったと感じました。部屋の中から外にいる母親やきょうだいの姿が見えるようになっていたことも、とても良いことだと思いました。

外での遊びはハンモック、ロープ、ブランコ、即製プール、ザリガニ釣りなど、自然と触れ合える遊びばかりで素晴らしいと思いました。子どもは自ら楽しさを見つけて、全力で遊んでいて、そんな子たちと一緒に関わり、私自身も本当に楽しかったです。

食事は流しそうめん、バーベキュー、焼きそばでした。特に流しそうめんは子どもたちに大人気で、「もっと流して！」などと好評でしたが、お腹がいっぱいになった子どもは、今度は流す係になりそうめんを流していました。流しそうめんを食べるそうめんはとても美味しかったです。初めてする子も多くいて、私自身も初めてした。6メートルもの流しそうめんの竹を急きょ準備してくださった羽生の杜のスタッフの凄さに驚きました。バーベキューでの野菜も採れたての野菜で、新鮮で美味しかったです。これなら野菜が苦手な子どもも食べられるのではないかと感じました。

これだけ素晴らしい活動になるのは、スタッフの人数がいて、自然にスタッフ同士の連携が取れているからだと思いました。私もベテランスタッフの方々の様に素早い行動や、子どもたち全員を広い目で見るできるよう勉強していきたいです。毎回学び、得ることが沢山あり勉強になります。これからも参加していきたいと思いました。今後ともよろしくお願い致します。

8月19日、羽生の杜にて

羽生の杜の皆さまにはたくさんお世話になりました。ありがとうございました。

【写真；戸田由美子さん・坂本佳代子さん】



2017すくすくの夏

一般社団法人すくすく広場夏の報告

2017年9月3日発行

一般社団法人すくすく広場

代表 坂本佳代子

事務局 加須市南町7-6 7戸恒方

URL k-sukusuku-hiroba.org